

平成25年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

## われら瀬戸内探偵団～瀬戸内海の環境を守ろう～ 実施報告書

【趣 旨】 近隣の瀬戸内海岸での生物観察・調査からスタートし、瀬戸内海域へフィールドを広げ、環境問題について考えていく体験的・問題解決的な環境学習を実施する。これらを通して、いま自分達に何ができるかを考え、環境保全・保護に配慮した積極的な行動がとれる意欲・態度を養う。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【共 催】 江田島市教育委員会

【期 日】 平成25年7月22日(月)～7月24日(水) 2泊3日

【会 場】 国立江田島青少年交流の家

【対 象】 国立江田島青少年交流の家及び周辺海岸  
広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」、瀬戸内海海域

【参加者数】 24名 (小学4, 5, 6年生)

【講 師】 広島大学大学院生物圏科学研究科 准教授 橋本 俊也  
広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」 職員  
大柿自然環境体験学習交流館 館長 西原 直久  
国立江田島青少年交流の家 企画指導専門職

### 【企画・運営のポイント】

- (1) 本年度から小学4年生も参加するため、初対面で緊張した雰囲気但至少でも和やかにするために、開講式の後「アイスブレイク」の時間を設定する。そうすることで班活動がスムーズにスタートできるようにする。
- (2) 参加者の意欲を高め、課題意識をもって体験的・問題解決的な環境学習に取り組めるよう、「瀬戸内海が、好きですか?」という探偵依頼を提示して活動を開始する。また、ガイドブックに写真や吹き出しを利用し、3日間の活動に沿った流れにしたものにする事で、探偵依頼に応えるというゴールに向け、全ての活動や調査をまとめていくことができるようにする。
- (3) 近隣の海岸を使った体験・調査については、江田島の海岸や干潟の生き物について詳しく調査を行っている大柿自然環境体験学習交流館館長(理学博士)の西原直久氏に指導を依頼する。瀬戸内海海域での学習では、広島大学大学院生物圏科学研究科橋本俊也准教授による「海洋観測の重要性」についての講義や、広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」でさまざまな海洋観測を行う。
- (4) 初めの2日間で体験・調査を実施し、探偵報告としてまとめる。更に、そのまとめを踏まえ、環境保全・保護のために自分たちができることを考え、最後の1日で実践する。

【活動の実際】

22日(月) 1日目		23日(火) 2日目		24日(水) 3日目	
10:00	受付	6:40	起床	6:40	起床
10:30	開講式 オリエンテーション	7:10	つどい, 清掃, 朝食	7:10	つどい, 清掃, 朝食
11:00	自己紹介, 班編成	9:30	交流の家発 小用港へ	9:00	瀬戸内海の環境を守ろう
12:00	昼食	10:00	豊潮丸での海洋観測	12:00	昼食
13:00	海辺の生き物観察	15:50	小用港着	13:00	退所点検
17:00	つどい, 夕食, 入浴	16:30	交流の家着	13:30	まとめ, 閉講式
19:00	なぞの生き物の観察	17:00	つどい, 夕食, 入浴	14:30	解散
21:30	就寝	19:00	探偵依頼にこたえよう		
		21:30	就寝		



アイスブレイク



海辺の生き物観察・なぞの生き物の観察



豊潮丸での海洋観測



探偵依頼に応えよう（班でのまとめ）



瀬戸内海的环境を守ろう

#### 【成果】

- (1) アイスブレイクを取り入れたことで、班の雰囲気は早いうちに和やかになり、その後の活動で協力する姿が多く見られた。また、なかなか集団になじみにくい者へやさしく声をかけ、励ます微笑ましい場面も見られた。まとめの場面では、体験・調査したことをグループで模造紙にまとめたり、発表したりした。このような活動をグループ単位、または全体で行うことによって、個々の考えを共有したり深めたりすることができ、より充実した内容にまとめることができた。
- (2) 「瀬戸内海が、好きですか？」という探偵依頼を提示することで、参加者は報告することを意識して体験活動や調査を行ったり、講習や講義を聞いたりすることができた。また、日頃目にしていて海について数で捉えたり、画像として残したりして科学的に検証していこうとする姿が多く見られた。
- (3) 瀬戸内海に棲むいろいろな生き物に触れたり観察したりすることを通して、自然とふれあう楽しさや感動を味わい、参加者全員が、瀬戸内海を大切にしたいという気持ちをもつことができた。「環境問題は、あなたにとって大切だと思いますか。」という問いに対し、「とてもそう思う・思う」と答えた者が全体の87%であった。また、「瀬戸内海的美しさを守るために私たちは何かできることがあると思いますか。」という問いに対し、「とてもそう思う・そう思う」と答えた者が全体の96%であった。環境問題全体にも視野を広げる機会とすることができた。
- (4) 課題意識をもって学習に取り組むことができたので、最終日の「瀬戸内海的环境を守ろう」では、自分たちで声をかけ合って活動するという意欲的な姿が多く見られた。

#### 【今後の課題】

- (1) 今後よりよい事業にしていくために、プログラム内容の精選の検討を行う必要がある。その際、環境問題を広く考えていくきっかけとして大変意義ある体験学習であることから、広島大学生物生産学部附属練習船（豊潮丸）での海洋観測活動は外せない。